

光栄の森

平成25年11月 毎月1日発行 第65号

発行者 光栄プロテック 吉竹

11月を迎えるにあたって

□

代表取締役 三田雅憲

朝夕の寒さが少し堪える今日この頃ですが皆様いかがお過ごしですか？さて、当社は、昨年2012年(平成24年)にひそかに創業50周年を迎えておりました。現会長である道下が、豊中市に個人で『光栄塗装(現：(株)光栄プロテック)』を興してから半世紀が経過したことになります。企業を生み出す大変さやそれを維持・発展させるプロセスには本当に血の吐くような厳しさがあったと思います。しかし先人・先達のそういう努力と情熱が今の光栄プロテックを築き上げたのだと思います。

今年に入り、5名の正社員を当社に迎えることができました。業界の異なる者が3名、初めて社会に出るものが2名とそれぞれ年齢やバックグラウンドや性格の違う者が、光栄で技術やさまざまな経験を学び、世に問おうとして日々努力してくれております。又、私がやってきた営業と工場ワークの両立を理解し少しでも頑張ろうと入社してくれた者もあり、その結果として来年1月には、東京駐在所(私が住込み)という形で、『東京進出』を果たす決断ができました。まだまだ、関西・中部(大阪・兵庫・京都・愛知)の開拓も道半ばなのですが、関西・中部はN君に任せ、私は東京で道を切り開いていきたいと存じます。道下が昔よく『東京から下野(げや)して大阪へきたんだ』という話をしておりました。つまり都落ちなんだということです。しかし半世紀を経て、再び光栄プロテックは東京へ上京・進出することになりました。

本当の目標はまだまだ先にありますが、その小さな一歩としてこのたび『光栄プロテック 東京駐在所』を開設いたします。

いろいろな壁や問題点・苦難や悲しみが目白押しであると考えます。大阪へ逃げて帰りたい衝動に何度も駆られると思います。

しかし『光栄プロテック』は、必ず目的をやり遂げ、特殊伝統意匠や高級塗装の分野(カテゴリー)の中で日本一(工場の大きさや社員数・資本金・売上高などではなく技術力と顧客満足度において日本一)になると信じております。

社員一同も今以上に責任感も持ち私が東京へ行っても大阪(地盤)をしっかりと守り東京が無くても十分な仕事を確保しているように頑張っほしく思いますし、そうなると心から皆を信じております。